

氏名

谷口 充之

教育委員に応募する理由（横書きで記入してください）

こ	い	ま	で	の	職	業	経	験	を	地	域	の	教	育
行	政	に	活	か	し	た	く	応	募	し	ま	し	た	。
私	は	38	年	間	、	小	学	生	か	ら	大	学	生	
ま	で	を	対	象	に	受	験	教	育	と	相	談	支	援
業	務	に	携	わ	り	ま	し	た	。	現	在	は	東	京
都	児	童	相	談	所	と	東	京	家	庭	裁	判	所	で
就	労	し	て	い	ま	す	。	特	に	児	童	保	護	所
に	は	複	雑	な	家	庭	事	情	な	ど	様	々	な	問
題	を	抱	え	て	い	る	子	ど	も	が	入	所	し	て
来	ま	す	が	、	短	期	間	で	そ	の	子	ら	が	成
長	の	姿	で	退	所	し	て	い	ま	す	。	し	か	
し	学	校	の	教	育	現	場	で	は	教	師	一	人	が
35	人	を	担	当	す	る	た	め	、	目	の	行	き	届
き	に	も	限	界	が	あ	り	ま	す	。	保	護	所	で
は	複	数	の	職	員	が	関	与	す	た	め	、	言	葉
使	い	か	ら	ト	ラ	ブル	時	の	介	入	は	ど	即	
時	の	対	応	が	な	さ	れ	て	い	ま	す	。	こ	の
よう	な	経	験	か	ら	、	学	校	教	育	の	場	に	
も	補	助	支	援	員	を	入	れ	る	は	ど	の	取	組
み	が	で	き	な	い	も	の	か	と	考	え	ま	す	。
既	に	改	善	構	築	さ	し	て	き	た	中	野	区	
の	人	的	・	物	的	な	資	源	と	地	域	連	携	な
ど	も	活	用	し	て	、	未	来	の	人	・	子	ど	も
達	を	育	む	中	野	の	町	づ	く	り	に	一	役	立
ち	な	い	と	思	っ	て	い	ま	す	。				

※1枚以内で記入してください

プロフィール（自己PR）

私は中野区に暮らし、44年になり、この中野で結婚し、子育てしてきました。

小学生時代はひとり親家庭で勉強が大嫌でしたが、小学5年生の時にある恩師と出会ったことで、自らの将来に夢と希望を持つことができました。その時の光景は今でも覚えています。教師は大変な仕事だけでも、子どもにとっては最大の教育環境となる存在です。私が将来、教育に関わる仕事に就きたいと思った原点が小学6年時でした。その後、進学して大学で教員免許をとり、大学卒業後は学習塾・予備校で20年間、大学の事務管理職として15年間ほど勤めました。保護者や生徒・学生と関わる中で、リスカで精神保健福祉士とキャリアインクルタンの資格を取り、中野区の障害者デパアスファとして2年大学では障害を抱える学生らの就職支援も経験しました。現在は、東京都児童相談所の夜間支援員、東京家庭裁判所の家事調停委員として働いています。私の強みは、小学生から大学生までの教育に直接に関わり、経験を積むことが出来たことです。

児童相談所（保護所）では、インタビューで問題のある児童でも、複数の職員が言葉の使い方やその意味を教え、対応介入することで、子どもの行動力にも変化が生じてきます。また、栄養過剰の児童が栄養バランスの取れた食事をすることで、適正体重になり、退所時には心身の健康も回復していく姿も見てきました。また、離婚や面会交流などと扱う家事調停の実務では、当事者との信頼関係を作るよう、傾聴と共感を第一に職場の実務に就くよう心がけています。

中野区のひとり親支援や障害児への行政支援のサービス体制は、年々整ってきていると思いますが、それを必要とする住民への広報活動や組織内での情報共有のあり方などの課題もたくさんあるのではないかと思います。

私は大学連携や各種団体などの社会資源も活用しながら、教育現場をより一層活性化していきたい。私達一家が暮らしてまたこの中野区で、子どもたちが明るい未来を描きながら住み続けることのできるようなかわりや支援をしていきたいという思いで、この度、教員委員に応募しました。

どうぞ宜しくお願い致します。

教育委員になった際に取り組む課題（箇条書き）

※優先度の高いものから順に、3項目以内で記入してください。

1.（課題）小学校教員の授業中の負担を軽減する取り組み について

その解決方法（箇条書きで簡潔に）

ADHDなどの特性を持つ児童が在籍する教室を巡回し、教員の要請に応じて介入し教員をサポートする。授業崩壊になる前に対応することは、子どもの学習する権利を守ることに資する。保育士、教員免許、キャリアコンサルタントの資格を有し、児童心理学や行動心理を学び経験を持つスタッフを採用する。

2.（課題）地域社会のリソースを活用する取り組み について

その解決方法（箇条書きで簡潔に）

- ① 管理栄養学科のある大学と連携協定を結び、食、栄養、体への影響などについて、給食時間を使って実施する。また食教育の教材を開発する。
- ② JCDA(キャリア開発協会)やキャリア支援を行う民間会社と連携し、小学校高学年からキャリア教育の一環として、発達段階に応じた教材を開発し、年に数回の特別授業を行う。(例、ロールモデルは太谷翔平選手など)

3.（課題）「子育て何でも相談会(仮称)」の企画・開催 について

その解決方法（箇条書きで簡潔に）

親子関係が崩れ、養育困難になる前に児童相談所等と連携し、親の子育ての悩みを受けとめ、必要時は行政の相談窓口につなぐ。
虐待の背景には様々な要因がありますが、共通しているのは親の孤立化があります。日頃から学校、児童相談所、家庭の間で、子育て不安の問題を把握しておくことは、虐待への予防策としても効果があると思います。